

佐野ケーブルテレビ(株)

コミチャンをより身近な存在に



栃木県佐野市の約90%をカバーする佐野ケーブルテレビ(株)(栃木・佐野市、古澤繁社長)。開局以来絶えずコミュニティチャンネルの強化を進めている同社は、今年4月からデータ放送を開始。そのデータ放送では視聴者参加型サービスを展開している。

前原利兼氏 営業企画部 次長



データ放送トップ画面

高齢者から喜ばれる

佐野ケーブルテレビは、12年4月にコミュニティチャンネルのHD化を終え、次なるステップとして、同年夏からデータ放送の検討を開始し、今年4月に開始した。

データ放送導入の目的は、コミチャンにおけるよりきめ細やかで多様な情報提供。そこで、(株)メディアキャストのデータ放送システム「DataCaster M3」を採用し、データ放送開始を決めた。DataCaster M3は、データ放送におけるBML制作環境から運用、送らまでを効率的で低価格を実現した統合型データ放送ソリューション。天気情報や交通情報など、コンテンツプロバイダより配信される情報の自動更新はもちろん、既存ホームページやRSSからの情報を自動的に取得し、更新することができる。佐野ケーブルでは、行政情報・お天気・生活情報・バスの運行情報、防災・防犯情報、イベント情報、佐野ケーブルからのお知らせ、映画館の上映情報、お悔み情報などを提供している。これらの多くは外部から情報を入手し、自動更新されている。前原氏は「行政からのお知らせなど、生活に密着した情報をデータ放送で提供することで、インターネットが利用できない高齢者の方々を中心に、「知りたい時に見れてとても便利」と喜ばれています」と語る。

コミチャンがあつてこそ

佐野ケーブルのデータ放送でひとときわ目を惹くのが、「視聴者参加型コンテンツ」だ。

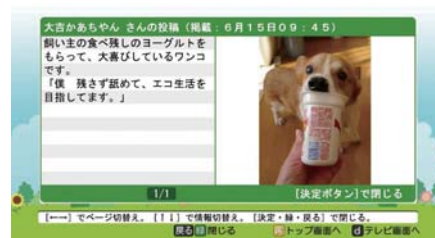
番組ガイド誌やHP等に専用のQRコードを掲載。そのQRコードをスマートフォンや携帯電話のカメラで読み取り、専用サイトへアクセスし、撮影した画像をメールサーバーに送信する。その画像を佐野ケーブル側でデータ放送画面にアップし、更新・表示する。投稿されている画像は、家族や子ども、友たち、自慢のペットなど。これらにちょっとしたコメントを添えて投稿でき、ソーシャルメディアを利用する感覚で楽しめる。これは個人だけでなく、お店や企業も利用でき、専用ページが設けられている。おススメメニューやキャンペーン情報などを投稿可能であり、プロモーションとして活用できる。投稿写真は最大12個掲載可能で、新しく投稿されると過去の画像は自動的に画面上から削除され、つねに最新の投稿が閲覧できる。

サービス開始から間もなく投稿数はまだ少ないが、前原氏は、「コミチャンをより身近に感じてもらえたらと思っています。また、お店や企業もどんどんPRの場として活用して頂ければ地域の活性化にもつながります」と、期待を寄せる。

「コミチャンあつてのケーブルテレビ」との方針のもと、佐野ケーブルは、コミチャンの充実を最優先として取り組んできた。もちろん、データ



視聴者投稿一覧画面



お気に入りの写真をアップできる楽しさが魅力

放送への着手もその一環だ。

佐野ケーブルは、データ放送を起点とした次世代サービスへ展開していく方針で、現在、番組のアーカイブ化を進めている。開局から21年目を迎えた佐野ケーブルは絶えず、地域情報を発信し続けてきた。1992年以降の市内のアナログ映像をデジタル化し、60分番組として放送。懐かしい映像をテレビで視聴できるとあって視聴者からも好評だ。この取り組みは、地域のメディアとしてのケーブルテレビのひとつの役割だろう。「番組の充実、そしてデータ放送によるきめ細やかな情報提供と視聴者参加型サービスを通じて、ケーブルテレビを生活になくはならないものにしていきたい」と前原氏は語る。